

厚生科学研究
(子ども家庭総合研究事業)

健康志向型による乳幼児健康診査の介入効果
(育児満足度・育児能力・育児不安軽減・対処行動)
に関する対照群を含む追跡研究

平成12年度研究報告書

平成13年 3 月

主任研究者 星 旦 二

目 次

I. 総括研究報告 349

II. 総合研究報告 351

厚生科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）
総括研究報告書

健康志向型による乳幼児健康診査の介入効果（育児満足度・育児能力・育児不安軽減・
対処行動）に関する対照群を含む追跡研究（H10-子ども-011）

研究者 星 旦二 東京都立大学

研究要旨：母子保健活動における根幹をなす乳幼児健康診査を健康志向型の子育て支援方式を推進するために、健康志向型子育て支援モデルと支援介入マニュアルを作成し、アンケート調査を実施した。その結果、健康志向型子育て支援を行った群は、手段的評価指標の一つである「対処行動」と受診満足度が有意に高かった。また、育児不安を規定する要因の変数を明らかにすることができた。

分担研究者

渡部 月子：神奈川県立衛生短期大学（講師）
標 美奈子：神奈川県立衛生短期大学（講師）
山崎 秀夫：東京都立大学（助教授）

A. 研究目的

本年度の目的は、乳幼児の母親を対象として育児不安の規定要因を明らかにするとともに、乳幼児健康診査において、健康志向型に子育てを支援する介入策を企画・実践し、育児不安および健康診査を受診しての満足度を健康指標としてその介入効果を明らかにすることである。

B. 研究方法

主として介入実証疫学を活用し、同時に記述疫学、分析疫学を活用する。

I 健康志向型の子育て支援介入モデルの実施

新しい子育て支援介入を企画・実践するにあたり、4カ月児健康診査を実際に担当している保健婦・栄養士等とともに共通理解として議論し、市町村ごとに子育て支援マニュアルを作成した。

II 事前・事後アンケートの実施

①事前調査

4カ月児健康診査の受診1カ月前に郵送する健康診査の案内にアンケート用紙を同封し健康診査当日回収する。この事前調査により介入前の2群の属性を明らかにし、2群間に差がないことを確認する。健康診査の当日によって対照群と介入群の2群に分ける。

②4カ月児健康診査における介入

介入群に対しては新しく作成したマニュアルを用いて実施し、対照群には従来の方法で対応する。

③事後追跡調査

健康診査受診後1カ月後のアンケートによる追跡調査を実施する。

C. 研究結果

表1. アンケート回収数

	対照群	介入群	合計
事前調査	345名	363名	708名
事後調査	248名	264名	512名

母親の年齢分布は52.7%が20代、46.6%が30代で

あった。子どもの数の分布は第1子が49.9%であった。市内の居住年数はまだ数年のグループと20年以上のグループの二峰性の分布である。

表2. 事前調査の個人属性の比較

変数名	対照群	介入群	t検定
年齢	28.98 ± 4.60	29.34 ± 4.01	-1.03 ns
子ども数	1.70 ± 0.77	1.63 ± 0.85	1.02 ns
居住月数	105.93 ± 122.94	92.61 ± 119.30	1.40 ns

表3. 事前調査における2群間の比較

変数名	対照群	介入群	t検定
友人数	1.96 ± 2.26	1.73 ± 2.11	1.31 ns
ソーシャルサポート	6.48 ± 2.24	6.44 ± 2.22	0.24 ns
手段的サポート	8.59 ± 4.08	8.36 ± 3.99	0.70 ns
情緒的サポート	12.56 ± 5.65	13.04 ± 5.21	-1.03 ns
夫のサポート順位	1.13 ± 0.49	1.22 ± 0.75	1.77 ns
夫のサポート得点	5.97 ± 2.55	6.24 ± 2.22	-1.40 ns
子育て観	18.79 ± 1.95	18.70 ± 2.04	-0.56 ns
育児不安	13.56 ± 1.17	13.64 ± 1.20	-0.72 ns
対処行動	12.28 ± 2.28	12.04 ± 1.95	1.35 ns
自己価値	25.07 ± 2.45	25.21 ± 2.49	-0.67 ns

mean ± S D スコアの高い方がポジティブな回答を示す

表4. 事後調査における2群間の比較

変数名	対照群	介入群	t検定
友人数	2.01 ± 2.75	1.82 ± 2.96	0.43 ns
ソーシャルサポート	6.16 ± 2.11	6.36 ± 2.19	-1.01 ns
手段的サポート	9.11 ± 4.02	9.18 ± 4.02	0.19 ns
情緒的サポート	13.31 ± 5.35	13.85 ± 5.33	-1.11 ns
夫のサポート順位	1.30 ± 1.09	1.12 ± 0.54	0.98 ns
夫のサポート得点	6.97 ± 7.11	6.63 ± 2.02	0.70 ns
子育て観	18.36 ± 2.16	18.21 ± 1.97	0.79 ns
育児不安	13.52 ± 1.28	13.60 ± 1.36	-0.68 ns
対処行動	11.15 ± 3.93	11.94 ± 1.68	-2.90 *
自己価値	25.54 ± 1.92	25.50 ± 2.00	0.11 ns

mean ± S D * p < 0.05

表5. 受診満足度の比較

変数名	対照群	介入群	t検定
集団指導	59.68 ± 22.20	64.53 ± 20.32	-2.16 *
健診全体	62.06 ± 21.45	65.41 ± 22.68	-1.52 ns

mean ± S D * p < 0.05

D. 考察

I. 健康志向型介入健康教育によるアンケート調査結果

健康診査の場で直接回収した事前調査の回収率は、73.2%、健康診査4週間後郵送による事後調査の回収率は、50.0%だった。

事前調査による個人の属性においては、母親の年齢・子どもの数・居住年数・同居家族・現在の職業、結婚や妊娠による職業の変化・学歴・社会活動への参加状況いずれの変数においても有意な差は認められなかった。

健康志向型子育て介入の効果について、健康志向型に子育てを支援する介入を受けた群と従来の健康診査を受けた対照群との差をみると、最終評価指標である育児不安には2群間に差は認められなかった。しかし、手段的評価指標の一つである「対処行動」は介入群の方が統計上有意にポジティブであり、健康志向型の介入による集団健康教育の満足度は介入群が有意に高かった。母親にとって最初に受診する4か月児健康診査時における育児支援の有効性が示唆された。

自由記載による、乳幼児健康診査への要望では、集団指導への改善を望む意見が大半を占める中、介入群に「集団指導は楽しかった」「こういう集団指導は初めてで、母親同士話ができてよかった、また受診したい」という意見があった。改善を望む内容として、全体的には時間がかかる割に十分な診察や説明が得られず、対応にも不満がのこるという傾向が伺えた。

II 育児不安規定要因

乳児が4か月の時点で、その母親が持つ要因から5か月になる頃の育児不安の程度を予測できる可能性について検討した。

育児不安に影響していた要因は、母親の子育て観・対処行動であり、子どもの数では、第2子の方が育児不安が強いという結果が得られた。ポジティブな子育て観が育児不安の少なさと関連することから、子育て支援の中の子育て観の向上を図ることを加えるべきではないかと考えられる。また、育児不安の概念を育児に対する具体的な心配事の多さではなく、脅威があることに對する漠然とした心の状態とすると、出生順位だけで育児不安の有無を予測するのではなく、兄弟をみながら4か月の乳児を育てていることへの身体的・精神的な負担に注目すべきである。

E. 結論

育児を負担に感じることなく子育ての楽しさや母親同士が交流しあえる楽しさを味わえ、困ったときには、相談できることを目標に、4か月児健康診査における受診者集団に、健康志向型の子育て支援介入モデルを作成し、介入マニュアルに沿った介入を行った結果、手段的評価の一つである「対処行動」と受診満足度は介入群がポジティブであった。

F. 研究発表

1. 発表論文

- 1) 保健活動における地域把握の意義と方法—市町村地域把握の意義—：星旦二他,保健の科学,Vol.43,No.3,185-189,2000.
- 2) 個別健康教育を次のステップの保健につなげよう：星旦二他,保健婦雑誌,57(3),206-210,2000.
- 3) 「老人の健康を左右するもの—アラメダ研究での行動・心理・社会・経済的要因から」の報告：栗盛須加雅子・邑山玉連・星旦二他,保健婦雑誌,Vol.57,No.2,116-120,2000.
- 4) 「孤立」の健康障害：岡戸順一・星旦二,Modern Physician,Vol.20,No12,1461-1463,2000.

5) あなたのまちの健康づくり—みんなで進める「健康日本21」：星旦二他,新企画出版,2000

6) 主観的健康感の医学的意義と健康支援活動：星旦二他,総合都市研究,73,125-133,2000.

7) 都市の健康水準—望ましい都市の健康づくりのために—：星旦二他,東京都立大学出版会,2000.

8) 社会・人間ネットワークと健康.星旦二他,日本医師会雑誌,123(3),383-389,2000

2. 学会発表

本年度は以下の学会発表を行った。

- 1) 生涯現役追跡研究推進要因：星旦二,藤原佳典,山崎秀夫他,日本公衆衛生雑誌,47(10),2000
- 2) 高齢者の社会的ネットワークの概念規定とその実証研究：岡戸順一,星旦二他,日本公衆衛生雑誌,47(10),2000
- 3) 住民からみた健康手帳の使い易さと活用意欲に関する研究：邑山玉連・藤原佳典・櫻井尚子・星旦二日本公衆衛生雑誌,47(10),2000
- 4) 子どもと高齢者が共に楽しく暮らせるまちづくり：本村潮美・本間直子・岸本泰子・星旦二,日本公衆衛生雑誌,47(10),2000
- 5) 伊勢原市における介護予防の「生涯現役推進」総合保健モデル活動：北原稔・原田久・岸田恵子・大越英毅・新堀しのぶ・星旦二,日本公衆衛生雑誌,47(10),2000
- 6) 市町村保健活動スタッフのあるべき姿と持つべき資質—市町村保健活動の科学性・計画性の確保に関する研究：福永一郎・中山照美・亀山千枝子・平尾智広・北窓隆子・星旦二他,日本公衆衛生雑誌,47(10),2000
- 7) 育児グループにおける組織活動：中村裕美子・奥山則子・渡部月子・標美奈子他,日本公衆衛生雑誌,47(10),2000
- 8) 健康志向型による4か月児健康診査の介入効果：渡部月子・標美奈子・星旦二,地域保健婦学術研究会,2000
- 9) 4か月児健康診査における健康志向型の健康学習導入の効果：渡部月子他,神奈川県公衆衛生学会,2000.

G. 知的財産権の取得状況

知的財産権は、ありません。